

4 中学校の指導例（2）

- ◆ **主題名** 身近な自然を考える 指導内容 D [自然愛護]
資料名 大和川の自然 (王寺町郷土資料⑧ 王寺町教育委員会)

- ◆ **ねらい**

大和川で見かけるヌートリアを巡る問題について話し合うことを通して、人間と自然との関りを多面的・多角的に捉え、自然環境を大切にすることの意義を理解し、自然を愛し守ろうとする態度を育てる。

- ◆ **展開のあらまし**

○主な発問 ・予想される生徒の意識	指導上の留意点	備考
<p>○ 生き物や自然に対する人間が負うべき責任とは何でしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの生活のためにすることが、自然に及ぼす影響をきちんと考える。 ・人間も他の生き物を食物としなければ生きていけないことから、生き物や自然と共存できるような方策を考えること。 ・生き物や自然への感謝の念をもち、必要以上に取り過ぎたり荒らしたりしないようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 人間の都合で利用されたり駆除されたりするヌートリアに対するヨシトの心情を手掛かりとして、人間が負う責任という観点から人間と自然との関係について考え、自然環境を大切にすることの意義を理解できるようにする。 	
<p>◎ 守るべき自然とは、だれのための自然なのでしょう。人間は、自然とどのように関わっていけばよいとあなたは考えますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間が生きるための自然環境は、結局は人間のためのもの。 ・生き物や自然と共存しないと人間も生きられない。自分たちが生きていくためにも、生き物や自然を大切に守っていく必要がある。 ・長い年月をかけてつくられてきた自然などは、どうすればそのまま残していけるのかを考え、保護することが大切。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 人々の生活のために、これまで様々な変遷を経て作られてきた大和川の環境について話し合うことを通して、自然と人間の関わり方を多面的・多角的に考えられるようにする。 ◆ ワークシートに書き込むことでじっくりと考えさせ、それを基に積極的に話し合えるようにする。 	ワークシート
<p>○ 未来の大和川の自然は、どのようなものになればよいとあなたは考えますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水質がよく魚などの生き物が多く住み、様々な草花等が手入れされた人々の憩いの場。 ・堤防を整備し、災害に強い環境づくりをして、そこに共存できるような動植物を育てて豊かな自然をつくる。 ・現在の大和川の動植物をできるだけ守りながら、より住みよい町としていくために堤防や公園などを整備していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 安全で安心して暮らせる大和川と自然豊かな大和川の両立に向け、どのような環境が望ましいのかを自由に話し合うことを通して多面的・多角的に考え、身近な自然を愛し守ろうとする態度を育てるようにする。 	ワークシート

※ 展開のあらましに加え、導入として教材への興味喚起や追究する課題把握ができる活動等を、終末としてさらに見方や考え方を広げ深めるような説話や学習の振り返り等を行うなど、教材やねらい、生徒の発達段階等に応じて指導を工夫したい。